

# 北海道の新産業 一題



佐藤 のりゆき (さとう のりゆき)

キャスター、北海道大学客員教授

1949年札幌生まれ。72年HBCにアナウンサーとして入社、94年HBCアナウンサーからフリーに、番組制作(株)テレベックを設立、TV「のりゆきのトークDE北海道」メインキャスターを18年務める。この4月からHBCラジオ「土曜は朝からのりゆきです!」キャスター。2012年北海道独立研究会を立ち上げる。ソムリエ・ドヌール、医療法人社団延山会理事。主な著書に『のりゆきの痛快対談』『のりゆきの近未来経済』『のりゆきのこれがエッセイ!?!』『脱パンツ健康法』。

## 産業用麻の栽培と商品加工

北海道自立のための新産業の一つに、産業用麻の栽培と商品加工があげられると思います。

商品加工で、建築資材（断熱材や壁材）、家具材、自動車の内装材、衣料、食品、化粧品、石鹼<sup>せっけん</sup>など、なんと2万5千種類の商品が生まれます。また、ヘンプ（麻）・オイル燃料もでき、自動車のガソリンに代わるものとなります。当然これらの商品を作るための工場も必要となり、雇用も創出できます。

ヨーロッパ、特にドイツでは大産業になっています。1990年代から、ヨーロッパでこの産業用麻の栽培が解禁となりました（93年イギリス、94年オランダ、95年オーストリア、96年ドイツ）。カナダ、オーストラリア、ニュージーランドも同じ状況になっています。

麻は、春に種をまくと3～4カ月で高さ4mほどに成長します。農薬や化学肥料もほとんど必要としません。土壌の浄化作用さえあります。北海道は栽培特区になり（2008年8月に北海道チャレンジパートナー特区に認定）、北見市でわずかに栽培されていますが、いつまでも実験の域を脱しきれずにいます。北見市の舟山秀太郎氏がブルドーザーが2台も入れば身動きできない狭い土地で栽培しています。

この産業用麻を北海道の一大産業にしようと、頑張る研究者たちがいますが、これまで思うように進みませんでした。

これまで、道は「大麻取締法（昭和23年法律第124号）」との関係で栽培には大変消極的です。熱心な研究者たちは道庁に日参してきました。

65年の厚生省通知や、66年の通産省告示によって、大麻種子の輸入には発芽不能処理をする旨の規定があります。そのため、工業化ができない状況です。

産業用麻は、品種改良によって向神経性作用をもたらすテトラヒドロカンナビノール成分をほとんど含みません。50年も前の規定によって栽培規制する日本は、ヨーロッパから大変遅れをとっており、つまりこれは産業の遅れとなっていると言わざるを得ません。

昨年11月27日に私が研究者と産業化支援者に呼びかけ、民間レベルでの戦略会議なるものを行いました。この会議には法律家も参加し、大麻という名称変更も含め、新産業樹立のために真剣な討議が行われました。

その後、今年2月17日には「道北地域産業用大麻連絡会議」が設立されました。この栽培に非常に熱心だった松岡市郎町長の東川町をはじめ、連絡会議へ参加した自治体は、鷹栖、東神楽、比布、愛別、上川、美瑛、剣淵、幌加内の上川管内の9町と、留萌管内の天塩町です。道議会でこのたび、200万円の事業費がつき、栃木県の農業試験場から種子100gほどを購入し、試験栽培を行います。長年、この研究に取り組んできた菊地治己さんと松家源一さんが大麻研究者として認められ、この春から東川町の畑で栽培試験、加工試験、採種試験を行うことになりました。

耕作放棄地が増えている北海道は、栽培のための土地も確保できます。

やがては、1千億円を超える産業になるのは夢ではないのです。北海道自立のための新産業の一つになることは間違いありません。

### 石狩市をエネルギー基地とIT産業、データセンターの集積都市に！

もう一つ、北海道の新産業になると思われるのは(しかし、新産業にするという気概と実行力がないと実現できませんが)、石狩市をエネルギー基地と、IT産業、データセンターの集積都市にすることです。

先日、2月27日、私が客員教授として勤める北海道大学創成研究機構の第11回創成シンポジウム「石狩から電力革命目指せ！送電ロス・ゼロの世界」でテーマにいたしました。

石狩市は、実は北海道で唯一の大型LNG輸入基地です。LNGとは、都市ガスの原料となる液化天然ガスのことで、天然ガスは気体ですがマイナス162度まで冷やすと液体になり、体積は600分の1となり効率よく運べます。それを大型タンカーでサハリンやオー

ストラリアから輸入し、都市ガスを製造してパイプラインで札幌や小樽に供給しています。そして、これから発電所にLNGを導入します。

さらに、これから行おうとしているのは、「超電導直流送電」です。このプロジェクトができました。電気は発電所から交流で家庭や工場に送られています。電子機器はその交流をACアダプターを使い直流に変えて使います。その際に熱となる電気のロスが生まれます。データセンターは大量の熱が出ます。それをまた電気を使って冷やすという非効率なことが行われています。そこで、直流を使うデータセンターには直流で電気を送ろうという直流送電です。そういうシステムを作りあげるにより、石狩市にIT企業を集めることができます。また、医療機器も直流を使いますので、医療センターも出来上がります。

再生可能エネルギーでできる電気が直流ならば、大変効率のいい送電となります。

エネルギーの自給率が低い日本は、エネルギーの安全保障が、持続可能な国になるための必須条件です。北海道は食料とともにエネルギーの基地にならなければなりません。そのためのモデルになるよう、石狩市のこのプロジェクトの成功を大いに期待いたします。超電導直流送電と、LNG基地の両輪が、企業を呼ぶ、人を呼ぶ、石狩市の新しい姿にもなるのですから。